

わたしはあなたと共にいる神

奨励	井田 泉 [いだ・いずみ]
奨励者紹介	日本聖公会奈良基督教会牧師 親愛幼稚園園長

わたしの僕イスラエルよ。
わたしの選んだヤコブよ。
わたしの愛する友アブラハムの末よ。
わたしはあなたを固くとらえ
地の果て、その隅々から呼び出して言った。
あなたはわたしの僕
わたしはあなたを選び、決して見捨てない。
恐れることはない、わたしはあなたと共にいる神。
たじろぐな、わたしはあなたの神。
勢いを与えてあなたを助け
わたしの救いの右の手であなたを支える。
見よ、あなたに対して怒りを燃やす者は皆
恥を受け、辱められ
争う者は滅ぼされ、無に等しくなる。
争いを仕掛ける者は捜しても見いだせず
戦いを挑む者は無に帰し、むなしくなる。
わたしは主、あなたの神。
あなたの右の手を固く取って言う
恐れるな、わたしはあなたを助ける、と。
あなたを贖う方、イスラエルの聖なる神
主は言われる。
恐れるな、虫けらのようなヤコブよ
イスラエルの人々よ、わたしはあなたを助ける。

(イザヤ書 41章8―14節)

イエス・キリストの誕生の次第は次のようであった。母マリアはヨセフと婚約していたが、二人が一緒になる前に、聖霊によって身ごもっていることが明らかになった。夫ヨセフは正しい人であったので、マリアのことを表ざたにするのを望まず、ひそかに縁を切ろうと決心した。このように考えていると、主の天使が夢に現れて言った。「ダビデの子ヨセフ、恐れず妻マリアを迎え入れなさい。マリアの胎の子は聖霊によって宿ったのである。マリアは男の子を産む。その子をイエスと名付けなさい。この子は自分の民を罪から救うからである。」このすべてのことが起こったのは、主が預言者を通して言われていたことが実現するためであった。
「見よ、おとめが身ごもって男の子を産む。その名はインマヌエルと呼ばれる。」
この名は、「神は我々と共におられる」という意味である。ヨセフは眠りから覚めると、主の天使が命じたとおり、妻を迎え入れ、男の子が生まれるまでマリアと関係することはなかった。そして、その子をイエスと名付けた。

(マタイによる福音書 1章18―25節)

インマヌエル

アドベントに入りました。アドベントとは本来「到来」という意味ですが、それがクリスマスを迎える準備期間の意味で使われるようになりました。教会では、降臨節とか待降節と呼んでいます。神の子・救い主イエス・キリストの到来を待ち望む期節です。
ところで私たちよりはるか以前に、最初にアドベントを（つまりその子の誕生を）切なる思いをもって過ごしたのは、ほかでもなく母マリアと、その婚約者ヨセフでした。マタイによる福音書には、ヨセフに天使が現れてこう告げた、と記されています。
「『ダビデの子ヨセフ、恐れず妻マリアを迎え入れなさい。マリアの胎の子は聖霊によって宿ったのである。マリアは男の子を産む。その子をイエスと名付けなさい。この子は自分の民を罪から救うからである。』このすべてのことが起こったのは、主が預言者を通して言われていたことが実現するためであった。『見よ、おとめが身ごもって男の子を産む。その名はインマヌエルと呼ばれる。』この名は、『神は我々と共におられる』という意味である」（マタイによる福音書1章20―23節）。
キリスト教の内容を一言で言うとするば、聖書全体のメッセージを一言で言うとするばこの「インマヌエル」です。「神は我々と共におられる」ということを告げるのが聖書です。このヨセフ自身がそのことを経験しました。
イエスの母マリアの夫となり、イエスの父となったヨセフに、今日は目を留めてみましょう。新約聖書に登場する最初の人物ヨセフは、幸せな人としてではなく、苦しむ人、悩む人として登場します。
「イエス・キリストの誕生の次第は次のようであった。母マリアはヨセフと婚約していたが、二人が一緒になる前に、聖霊によって身ごもっていることが明らかになった。夫ヨセフは正しい人であったので、マリアのことを表ざたにするのを望まず、ひそかに縁を切ろうと決心した」（18―19節）。
いちばん信頼している人を信頼できなくなった。最も愛している人から最大の打撃を受けた。これが最初のヨセフの姿です。
婚約者マリアは身ごもっている。しかしそれは自分の子どもではない。マリアに何があったのか。誰にも相談できませんでした。ヨセフは一人で苦しみ悩んで、考えて、行き着いた結論は、マリアをなるべく傷つけず、自分も名誉を失わずに、ひそかに縁を切る、ということでした。これが人としてなしうる、もっとも正しい選択だと思って、彼は決心したのです。
ところが神が介入されます。

天使のお告げ

「このように考えていると、主の天使が夢に現れて言った。『ダビデの子ヨセフ、恐れず妻マリアを迎え入れなさい。マリアの胎の子は聖霊によって宿ったのである。マリアは男の子を産む。その子をイエスと名付けなさい。この子は自分の民を罪から救うからである。』」（20―21節）。
天使、神の使いがヨセフに言うのです。
「ダビデの子ヨセフ、恐れず妻マリアを迎え入れなさい」。
「妻マリアを」。ここを新約聖書のギリシア語原文を確かめると、ただ「妻マリアを」ではなく「あなたの妻マリアを」となっています。「すでにマリアはあなたの妻だ」と天使は言うのです。神が備えられ、あなた自身が約束して受け入れたあなたの妻である、と。
「マリアの胎の子は聖霊によって宿ったのである。」
ヨセフの苦しみ、ヨセフの堂々巡りの苦しみは、「マリアの胎の子はいったいだれの子なのか」ということでした。その問いを神が引き取られました。
「マリアの胎の子は聖霊によって宿った。」
その子は聖霊によって宿った神からの子、神の子である。もうそれ以上考えて苦しむ必要はない。
「その子をイエスと名付けなさい」（21節より）。
名付けるということは、その子の責任を引き受けるということです。消極的にではなく積極的に、その子の命と成長に対して責任を引き受けるのです。
「イエス」とは「主は救い」「主なる神は救ってくださいる」という意味です。そこでこう言われます。
「この子は自分の民を罪から救うからである」（21節より）。
マタイによる福音書は、預言者イザヤの言葉を引いてこのことを確認します。

「このすべてのことが起こったのは、主が預言者を通して言われていたことが実現するためであった。『見よ、おとめが身ごもって男の子を産む。その名はインマヌエルと呼ばれる』」（２２―２３節）。

人間的に言えばあり得ないことです。疑えば泥沼です。しかしもがき苦しんできたヨセフの前に、神が立っておられます。神が共におられます。神が人を罪から救う計画を、今、ここで実行しようとしておられます。その計画の中に、神はヨセフを組み込まれました。疑えば泥沼、迷えば地獄です。信じて引き受けるしかヨセフの道はありません。

新しいヨセフの誕生

起きて考えているだけであれば、ヨセフは永遠にもがき苦しんだかもしれません。人は何を言うか分からない。自分は途方もない幻想に迷い込んだのかもしれない。けれども眠りと夢の中で、ヨセフは造りかえられます。

「ヨセフは眠りから覚めると、主の天使が命じたとおり、妻を迎え入れ、男の子が生まれるまでマリヤと関係することはなかった。そして、その子をイエスと名付けた」（２４―２５節）。

眠りと夢の中で、ヨセフは造りかえられ、眠りから覚めた時、彼は神を信じ、神の約束を信じて生き始めます。

ヨセフは人に言えない苦しみを抱えていました。人間として最善の選択、正しい選択をしたとしても、苦しみと傷はなくならなかったでしょう。しかし神が彼と共におられました。「恐れることはない、わたしはあなたと共にいる神」（イザヤ書 41章 10節より）。

神はヨセフにこう呼びかけておられました。

神がヨセフと共におられ、神が彼の苦しみの中に入って来られました。神が進めていかれる良き救いの業の中に、彼を組み込んでおられました。

「ヨセフは眠りから覚めると、主の天使が命じたとおり、妻を迎え入れ、男の子が生まれるまでマリヤと関係することはなかった。そして、その子をイエスと名付けた」。

インマヌエル。神と共にいてくださる。神が語りかけてくださることを聞いて、信じて歩み出す新しい人生。それが今、ヨセフに始まりました。幼子の誕生を前に、神を信じて良きことのために積極的に責任を引き受けて生きる新しい人ヨセフが誕生したのです。ヨセフはマリヤと一緒に、イエスの成長を守り支えます。

私たちはどうでしょう。自分の中に、あるいは自分とその周りに、何ともしがたい困難や苦しみを抱えていることがあるかもしれません。しかしその苦しみと悩みの場所に、必ず神が共におられます。そこから新しい人生を始めさせようと、神は私たちのために働きかけてくださいます。ヨセフを励まされた神は、同じ言葉で私たちを励ましてください。

「恐れることはない、わたしはあなたと共にいる神」。

自分と人の声にしばしば大きく左右される私たちの心の耳に、聖書の言葉が響きます。神の言葉によって生きる新しい生涯が、私たちのために用意されています。

同じことを神が私たちにもしてくださいように。ヨセフと共におられた神が、私たちと共におられて、私たちを新しく歩ませてくださいますように。

2015年12月2日 京田辺水曜チャペル・アワー「アドベント礼拝奨励」記録

<HPでは傍線を省略しております。詳細は冊子体の『チャペル・アワー奨励集 293号』をご覧ください。>